

久慈市山形町の未確認生物「ガタゴン」を活用した地域活性化 (山形町ガタゴンプロジェクト)

人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）ヴィジュアルデザイン研究室学生チーム
(発表者：櫻井美可子・谷藤瑠花)

指導教員：教授 本村健太（人社・芸文）

序

昨年度に引き続き、久慈市山形町の未確認生物「ガタゴン」を中心に地域活性化のための企画案を考察し、可能なものから実行に移していくことが今年度の課題である。いわゆる「UMA」（ユーマ）であるガタゴンは、1992 年 6 月に発見された不思議な足跡に由来するもので、「ガタゴンまつり」や「ガタゴンのたまご」として地域の人々に親しまれるに至っている。

しかしながら、発見された当時の『岩手日報』（1992 年 12 月 9 日）の記事には「クマでも猿でもない不思議な足跡」が「長さ約二十二センチ、最大幅が約十五センチ」、指の部分に至っては「数センチ」と記載されているにも関わらず、現在、道の駅「白樺の里やまがた」前には巨大なたまごと足跡（図 1）が再現されている。このように誇張された大きさや卵生の動物（卵を産む動物）への飛躍は、地元民の愛すべき特徴なのかもしれないが、拠り所とするものが不明瞭となり、ガタゴンのイメージを固定化する方向でキャラクターのデザイン案を検討することには不都合であった。

どんなにうまく描いたガタゴン像を提案しても、受け入れられなければ意味がない。そこで、ガタゴンのたまごと足跡の形はデザインの基礎的素材として使うとしても、ガタゴンのイメージを岩手大学側から提案するのではなく、現地の子どもたちや住民がつねに空想を膨らませて地元愛を育むことのできる発想の原点としてガタゴンを位置づけ、とくに「ガタゴンイラストコンテスト」を主要な取り組みとして行うことにした。そうすることによってのみ、山形町のガタゴンは生き続ける存在になるのではないかと思われたからである。

人文社会科学部人間文化課程のヴィジュアルデザイン研究室学生チームで行った「山形町ガタゴンプロジェクト」の取り組みを以下に報告したい。



図 1：道の駅「白樺の里やまがた」前に設置されたガタゴンのたまごと足跡

I. 本研究課題について

(実施計画・方法)

昨年度の研究依頼において、キャラクター化そのものが可能であるかの検討を重ね、キャラクター会議をテーマとする漫画作品で認知度を上げるための活動を行ったが、同時に目的を達成するには今後どのような活動が有効かについて考察してきた。今年度の実施系勝については、すでに昨年度末に担当学生グループと久慈市山形町側での合同会議を行っている。

○合同会議

・平成 31 年 3 月 8 日（金）岩手大学地域連携推進センター内会議室にて
学生グループ（出席：小林香純、寺田ゆりか）は、本研究課題について岩手大学（三陸復興・地域創生推進機構 地域創生部門）共同研究員の大内田泰之さん、久慈市（山形総合支所 産業建設課）の係長の谷地彰さんと臨時職員の古屋敷みゆきさんとともに本件が次年度にも継続して採択された場合の実施計画や方法などについて検討した。

○実施計画

本研究課題の実施内容については次のように計画した。

1. 『広報くじ』への 4 コマ漫画やプロジェクトメンバー紹介などの掲載
2. ガタゴンイラストコンテストの企画実施及び「ガタゴンまつり」との連携
3. ガタゴンパンフレットの作成（イラストコンテスト実施後に予定）
4. ガタゴン関連商品企画（ソフトクリーム用のクッキー・チョコ型作成など）

この研究計画を中心に新たな学生グループを結成し、再度検討を重ね、可能なものから実施していくことにした。

また、現地調査は山形町で夏祭りとして開催される「ガタゴンまつり」への参加に重ねて行うこととした。

II. 今年度における研究活動の経過について

(結果・考察)

○『広報くじ』への関連情報掲載について

昨年度に予定していた『広報くじ』への情報掲載に関しては、今年度になり学生グループが改めて連絡・調整を行い、下記のように実施された。

- 『広報くじ』No. 314 2019 年 4 月 1 日号 p. 16
4 コマ漫画「ガタゴンの楽しいキャラクター会議」（作：しらす。）4 作品（図 2）
- 『広報くじ』No. 316 2019 年 5 月 1 日号 p. 10
4 コマ漫画「ガタゴンの楽しいキャラクター会議」（作：しらす。）4 作品（図 3）
- 『広報くじ』No. 318 2019 年 6 月 1 日号 p. 9
2019 ガタゴンプロジェクトメンバー紹介「ガタゴンを通じた地域おこし」（図 4）
- 『広報くじ』No. 320 2019 年 7 月 1 日号 p. 10
イラストコンテスト「ガタゴンイラストコンテストの作品を募集します」（図 5）
- 『広報くじ』No. 323 2019 年 8 月 15 日号 p. 1
ガタゴンイラストコンテスト結果発表（図 6）

NEWS

ガタゴンの楽しいキャラクター会議

作：しらす。

岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室では「久慈市山形町のUMA『ガタゴン』を通じた地域おこしのためのデザイン案の検討」をテーマに活動を行っています。

毎月1日号（5月1日号まで）に「第8回いわてマンガ大賞」優秀賞を受賞した作品を連載します。

2019.4.1号

16

図2：『広報くじ』No.314「ガタゴンの楽しいキャラクター会議」（作：しらす。）

NEWS

ガタゴンの楽しいキャラクター会議

作：しらす。

岩手大学ガタゴンプロジェクトチームです。本年度は多くの人にガタゴンを知ってもらうために、イラストコンテストやパンフレット作り、ガタゴンを使った商品提案などを行う予定です。以前から考えていた企画もあり、実現できればと思っています。本年度もよろしく願います。

2019.5.1号

10

図3：『広報くじ』No.316「ガタゴンの楽しいキャラクター会議」（作：しらす。）

INFO

ガタゴンを通じた地域おこし

☎72-2129

岩手大学では、学生の積極的な地域社会への参画を促進するため、地域が抱えるさまざまな課題を募集し、学生の研究テーマとして活動する取り組みを行っています。

昨年度に引き続き、岩手大学ヴィジュアル研究室では「久慈市山形町のU・M・A『ガタゴン』」を通じた地域おこしのためのデザイン案の検討」をテーマに活動します。

本年度からはメンバーも増え、4年生4人、3年生5人の計9人で取り組みます。皆さんの考えるガタゴンを募集するガタゴンイラストコンテストの開催や、ガタゴンを用いた商品の提案、より多くの人にガタゴンを知ってもらうためのパンフレット制作などを行う予定です。



道の駅「白樺の里やまがた」に
設置されたガタゴンの卵のオブジェ

2019ガタゴンプロジェクトメンバー

▼4年【教育学部】

▼小田中恭介 ▼高橋小春

▼4年【人文社会科学部】

▼小林香純 ▼寺田ゆりか

▼3年【人文社会科学部】

▼櫻井美可子 ▼佐々木真子 ▼高橋峻 ▼千葉雄大 ▼三上瑠奈

2019ガタゴンプロジェクトメンバー

図4:『広報くじ』No. 318 メンバー紹介「ガタゴンを通じた地域おこし」

INFO

ガタゴンイラストコンテストの作品を募集します

☎72-2129

小学生を対象に「ガタゴンイラストコンテスト」を開催します。このコンテストは、岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室が取り組んでいる「久慈市山形町のU・M・A『ガタゴン』」を通じた地域おこしのためのデザイン案の検討の一環として実施するものです。

入賞者は、広報くじで発表するほか、ガタゴンまつりでガタゴンを描いてみましょう。

▼募集テーマ：あなたが想像するガタゴン

▼対象：小学生（1人1作品）

▼要件：①A4サイズ用の紙にテーマに沿って描いたイ

イラスト②オリジナルの作品で、アニメキャラクターなどとは類似していない

▼各賞・賞品：

【最優秀賞】図書カード 3000円分（1人）

【優秀賞】図書カード 1000円分（7人）

※入賞者には事務局より、詳細を個別に連絡します

▼応募方法：①氏名（ふりがな）②住所③性別④年齢⑤電話番号⑥作品コメントを添えて作品を持参・郵送

▼応募先：〒028-8602 久慈市山形町川井8-30-1 山形総合支所産業建設課

▼応募期限：7月25日（日）必着

ガタゴンイラストコンテスト 作品募集!!

令和元年 小学生対象

8月15日（水） 申し込み締め切り

8月25日（日） 作品募集締め切り

7月25日

図5:『広報くじ』No. 320 ガタゴンイラストコンテストの作品募集

8.15 広報 くじ

2019 (令和元年) No.323



最優秀賞に輝いた碁石凜さんが描いたガタゴン

ガタゴンイラストコンテスト

岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室が実施した「ガタゴンイラストコンテスト」。市内の児童 892 人から応募があり、一人一人が考えたさまざまなガタゴンが描かれました。

8月2日に岩手大学で審査会が行われ、下記の通り、最優秀賞1点、優秀賞7点を選定。8月25日に山形町川井で開催されるガタゴンまつりで、表彰式が行われます。

▶最優秀賞…碁石^{ごいし}凜

▶優秀賞…松本^{まつもと}心花、藤原遼太郎、大下幸子、久世春稀、神成葵、^{かのうしろう}叶城悠斗、角美希(敬称略・年齢順)

図6：ガタゴンイラストコンテスト結果発表

○ガタゴンイラストコンテストの企画実施

昨年度の研究において、ガタゴンのキャラクターについては、これまで通り、「謎」を引き継いだまま、その魅力を発信することにした。そうして、「ガタゴンとはどのような生き物なのか」などの問いかけから、現地の子どもたちにイラストを描いてもらうようなワークショップやコンテストなどのイベントを仕掛けていく方向性が良いのではないかという考えに行き着いた。

今年度は押し付けになるようなガタゴンのキャラクター化を行わない代わりに、ガタゴンに対する関心度を高めるように「ガタゴンイラストコンテスト」を実施することにした。

- 目的：山形町固有の「ガタゴン」を用いて山形町の活性化を図る。
- 内容：「あなたが想像するガタゴン」のイラストコンテスト（図7）
- 対象：久慈市の小学生
- 審査：岩手大学と久慈市のプロジェクトメンバーで審査会を実施



令和元年 小学生対象
ガタゴン イラストコンテスト
作品募集!!

「ガタゴン」とは？
平成4年6月、久慈市山形町の畑で、誰も見たことのない不思議な足跡が発見されました。研究機関に鑑定依頼しましたが、どんな生物なのかは特定できませんでした。当時の山形村は、山形の『ガタ』を取って、『ガタゴン』と名付けました。いまだに、その未確認動物「ガタゴン」は発見されていません。さて、どんな生物が想像して、かいてみよう!!

優秀作品には
図書カードプレゼント!
最優秀賞1名 3000円分
優秀賞7名 1000円分

申し込み締切
7月25日

8月15日(木) くじ広報にて結果発表!
8月25日(日) ガタゴン祭りにて表彰!

お問い合わせ：久慈市山形総合支所 産業建設課 TEL 0194-72-2129



令和元年 ガタゴンイラストコンテスト

■募集テーマ
あなたが想像するガタゴン

■募集期間・結果発表
●募集期間
令和元年7月1日(月)～7月25日(木) 必着
●結果発表
令和元年8月15日(木)
くじ広報にて発表

■各賞
●最優秀賞1名
賞品：図書カード3000円分
●優秀賞7名
賞品：図書カード1000円分
8月25日(日)のガタゴン祭りにて表彰
表彰の際、図書カードの贈呈をいたしますので入賞者はガタゴン祭りへのご参加をお願いいたします。
入賞者には事務局より、詳細を個別にご連絡させていただきます。

■応募資格・応募方法
●小学生であること
●1人1作品まで
●A3サイズの用紙に描きテーマに沿ったイラストであること
●作品はオリジナルなものとし、アニメキャラクターなどと類似しないこと

■審査員
●久慈市及び岩手大学ガタゴンプロジェクトメンバー

■応募先
〒028-8602 岩手県久慈市山形町川井8-30-1
久慈市山形総合支所 産業建設課

■お問い合わせ TEL:0194-72-2129

※キリトリ線※

ガタゴンイラストコンテスト応募用紙				
ふりがな 名前	性別	男	女	年齢
〒				
住所	電話番号			
作品コメント(説明)				

図7：ガタゴンイラストコンテスト作品募集のチラシ（制作：寺田ゆりか・小林香純）

久慈市の谷地彰さん・古屋敷みゆきさんによる久慈市内の小学校への働きかけもあり、結果的に「892作品」がコンテストに応募された。学生企画で始まったコンテスト、しかもその初回においてこのような規模の作品数を集めることができたのはありがたいものである。

令和元年8月2日（金）、ガタゴンイラストの審査会（審査員：谷地彰・古屋敷みゆき・本村健太・小林香純・寺田ゆりか・高橋峻・千葉雄大）は、岩手大学芸術棟2階 213 室にて実施した。（図8）

厳正な審査の結果（図6）、最優秀賞1点（図9）、優秀賞7点（図10）を選定した。



図 8 : ガタゴンイラストコンテスト審査会の様子 (2019 年 8 月 2 日)

ガタゴンイラストコンテストの審査結果

- ・最優秀賞：基石凜

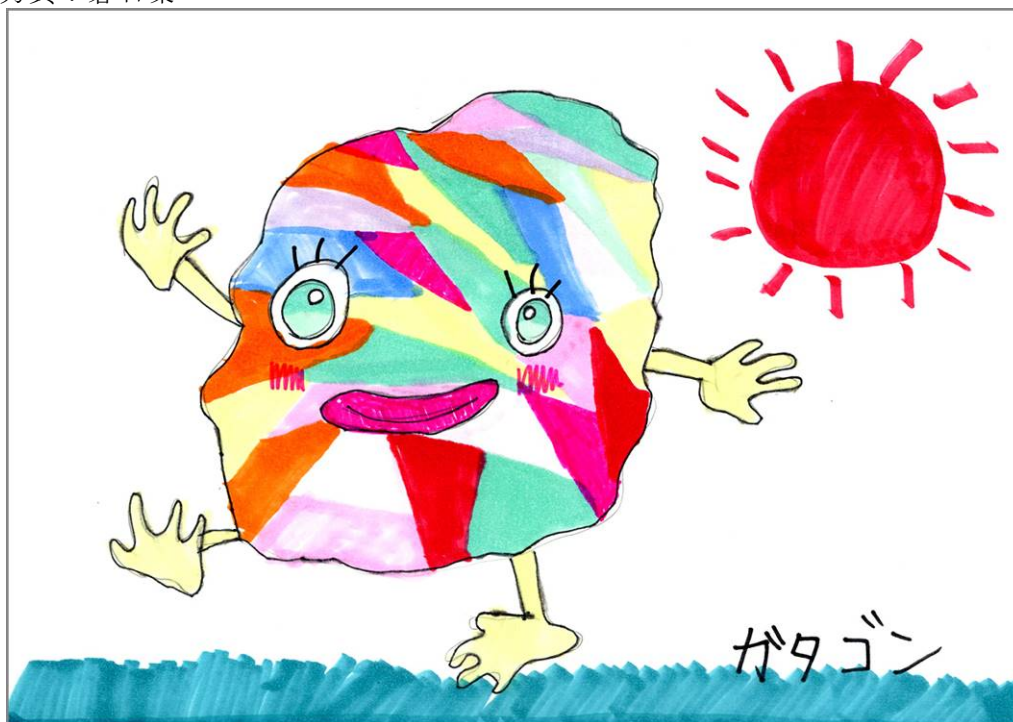


図 9 : ガタゴンイラストコンテスト最優秀賞受賞作品

令和元年度地域課題解決プログラム

- ・優秀賞：松本心花、藤原遼太郎、大下幸子、久世春稀、神成葵、叶城悠斗、□美希



図 10：ガタゴンイラストコンテスト優秀賞受賞作品



図 11：コンテスト受賞作品のストラップ化（制作：寺田ゆりか）

ガタゴンイラストコンテストは、令和元年 8 月 25 日に山形町川井で開催される「ガタゴンまつり」で、表彰式が行われることとなった。その際に副賞として、学生（寺田ゆりか）がレーザー加工機により加工した受賞作品のストラップ（図 11）を受賞者に贈ることにした。



図 13 : 学生グループの参加したガタゴンまつりの様子 (2019 年 8 月 25 日)



図 14：ガタゴンイラストコンテスト表彰式の様子（2019 年 8 月 25 日）

『広報くじ』（令和元年 8 月 15 日号）における紹介記事：

岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室が実施した「ガタゴンイラストコンテスト」。市内の児童 892 人から応募があり、一人一人が考えたさまざまなガタゴンが描かれました。8 月 2 日に岩手大学で審査会が行われ、下記の通り、最優秀賞 1 点、優秀賞 7 点を選定。8 月 25 日に山形町川井で開催されるガタゴンまつりで、表彰式が行われます。

最優秀賞：基石凜、優秀賞：松本心花（ここな）、藤原遼太郎、大下幸子、久世春稀、神成葵、叶城（かのうしろ）悠斗、口美希（敬称略・年齢順）

<https://mykoho.jp/article/岩手県久慈市/広報くじ-令和元年8月15日号/ガタゴンイラストコンテスト/>
(2019.08.15 岩手県久慈市)

その後、ガタゴンイラスト入賞作品は久慈市民芸術文化祭においても展示された。(図 15)

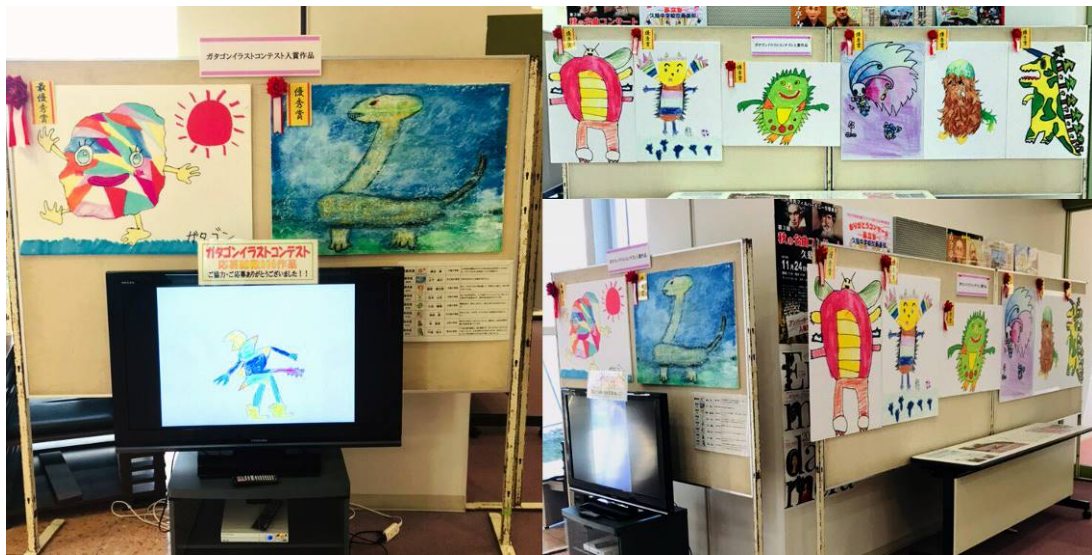


図 15：ガタゴンイラスト入賞作品展示（久慈市民芸術文化祭）

このように、学生企画から始まった「ガタゴンイラストコンテスト」のイベントは、「ガタゴン」の固定的なキャラクターの設定ではなく、それが未来に開かれた創造の「種」（＝卵）として、久慈市民に提供できるシステムになったのではと思われる。

○学生による個々の提案

学生グループの検討の過程において、個々の学生がそれぞれのアイデアを生み出し、提案こともあった。以下は今年度の実現へと動くことはできなかったが、可能性として提案するものである。

昨年度に「造形実習（視覚文化）」（担当：本村教授）の履修生であった太田代彩は、「久慈市山形町のフリーロゴを作ってみた。」（図 16）を今年度になり提案した。パッケージなどの宣伝においてターゲットやコンセプトによってロゴマークの方向性も変わるだろうということで、「凝っている⇔シンプル」と「かわいい⇔カッコイイ」という x 軸 y 軸を設定し、四つの象限ごとに提案するロゴマークを考案してみた。（ただし、ターゲット層は子どもから若者までに絞った。）

〔太田代彩〕ロゴデザインの方向性：

- ・かわいい×凝っている：カラフル、ごちゃ混ぜで子どもや女性が好きそうな感じに
- ・かわいい×シンプル：フォントは細めで丸いものとし、色数を 2 色以下に
- ・カッコイイ×凝っている：カタカナやアルファベットで鮮やか、硬い感じに
- ・カッコイイ×シンプル：モノトーン、寒色、シルエット感で使いやすく、分かりやすく

今年度には、書道を専門とする宍戸野々花とともに、谷藤瑠花がアレンジを担当してロゴマークの提案を試みることになった。（図 17, 18）

〔宍戸野々花〕ガタゴンのイメージに合わせ、様々な書体で平仮名、カタカナ、象形文字などパターンを変えながら書いた。ガタゴンは怪獣のイメージがあったため、後半は力強い

令和元年度地域課題解決プログラム

書体、そして造像記風の書体で書くということで固定し、パターンを絞っていった。ただ象形文字の書体は、もともと力強いものではないため、その点は例外とした。一見して字が読めないという点においては、そもそもガタゴン自体も未確認生物であるから、イメージはあっているのではないかと思います。



図 16：ガタゴンロゴマークの提案（制作：太田代彩）



図 17：ガタゴンロゴマークの提案（制作：谷藤瑠花・宍戸野々花）

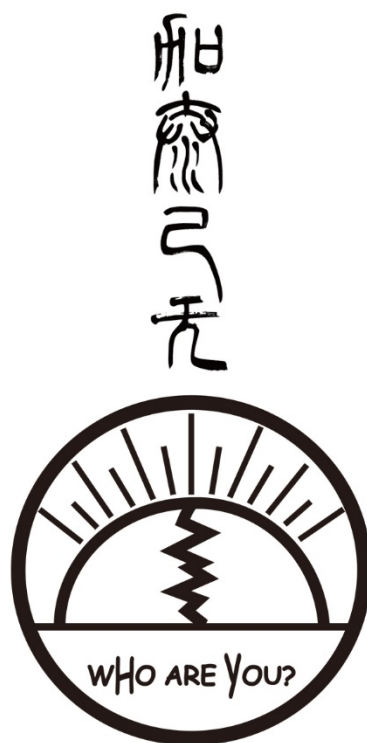


図 18 : ガタゴンロゴマークの提案（制作：谷藤瑠花・宍戸野々花）

これらのロゴマークは、「ファブテラスいわて」（デジタル工作機器が利活用できる施設）においてレーザー加工機で MDF（中質繊維板）に彫刻してみた。（図 19）



図 19 : ガタゴンロゴマークの提案（制作：谷藤瑠花・宍戸野々花）

ファブテラスいわてのスタッフでもある寺田ゆりかは、独自にガタゴンの足跡のかたちをした「クッキー抜き型」(図 20) を 3D プリンターで制作した。



図 20：ガタゴンの足跡のかたちをしたクッキー抜き型の提案（制作：寺田ゆりか）

また、ガタゴンイラストコンテストの受賞作品における「ガタゴン」の様々なあり方に触発され、中軽米真は独自のイラスト作品（図 21）を制作した。



図 21：ガタゴンイラストコンテストからの発想（制作：中軽米真）

○学生によるこの商品企画の構想原案

当初は「ガタゴン関連商品企画」も研究予定であったが、実際に出資して商品化してくれるような企業が具体的に見つかっていないなかではさらなる展開はできなかったため、ここでは提案に留まることになった。今年度前期に「造形実習（視覚文化）」を履修していた学生にも自由に発想してもらったので以下に提示する。（図 22）

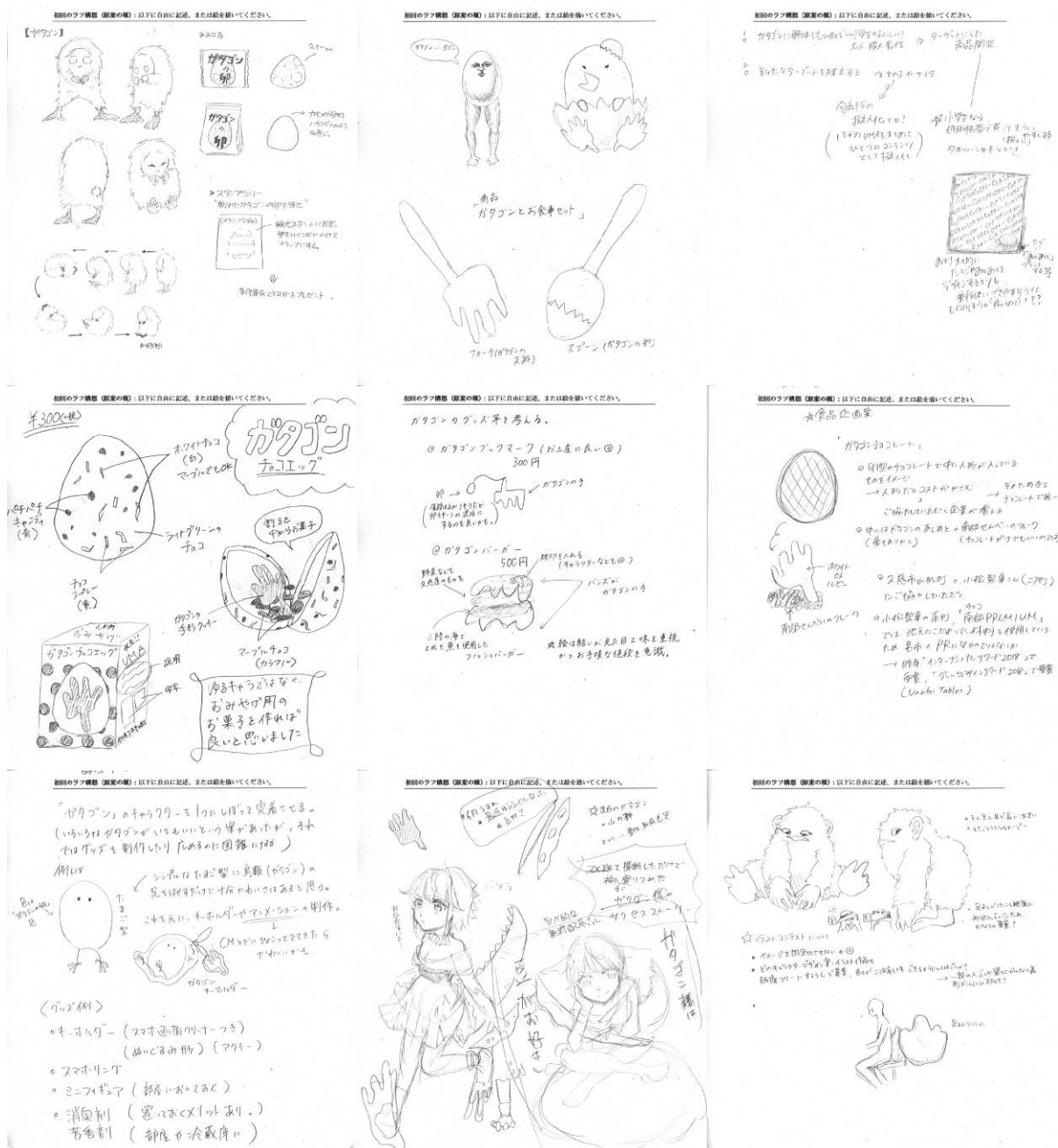


図 22：ガタゴン関連商品の提案（ラフ構想）

○ガタゴンパンフレットの作成

ガタゴンを紹介するためのガタゴンパンフレットは、櫻井美可子が制作（図 23）した。



ガタゴンとは

平成4年6月、久慈市山形町の畑で、誰も見たことのない不思議な足跡が発見されました。研究機関に鑑定依頼をしましたが、どんな生物なのかは特定できませんでした。当時の山形町は、山形の「ガタ」として「ガタゴン」と名付けました。未だに、その未確認生物「ガタゴン」は発見されていません。

初回ガタゴンイラストコンテスト
最優秀賞受賞作品



ガタゴンまつり

毎年8月に行われる、ガタゴンの足跡発見事件をルーツに持つユニークな祭りです。この地域に古くから伝承されてきたナニンドラ流し踊りが川井の商店街いっぱいに使って披露されるほか、御神体としてガタゴンの巨大な卵が乗せられた山車が登場します! 夏をさらに熱くするイベントの1つです。



神輿を担いでいます!

ガタゴンのあしあと

ガタゴンの足跡をモチーフにグッズ展開が進んでいます。Tシャツやキーホルダー等々、岩手大学の生徒達とグッズの提案などを行いました。足跡から様々な想像が膨らみますね!



Tシャツのデザイン

イラストコンテスト

ガタゴンがどんな生物かを想像して描いてみよう! というテーマのもと、小学生対象の一般公募企画。初回にして約900もの作品が集まりました! 入賞者は広報くじで紹介され、ガタゴンまつりにて表彰されました。



イラスト審査の様子

図 23 : ガタゴンパンフレット (制作 : 櫻井美可子)

○本プロジェクトを授業内で知った学生の感想

最後に、人文社会科学部 3 年生の必修科目「総合科学論（合理性と非合理性）」（本村教授の担当回）において、本件の紹介がなされた際に、一人の受講学生が「レスポンスカード」（授業記録・感想）に記した感想を紹介したい。

「ガタゴン」のプロジェクトはおもしろいと興味をひかれた。「ガタゴン」に明確な姿を与えず、足跡と大きな卵以外の情報を与えないというのは、かえって人々の興味をひき、PR になっていると感じた。あえて情報を与えるのではなく、減らすことで宣伝効果が高まっているように思い、様々な市場で応用できるのではないかと考えた。



ぜひ、山形町にいらしてください！

[謝辞]

本研究課題において、たいへんお世話になった久慈市の谷地彰さん、古屋敷みゆきさん、大内田泰之さんに感謝いたします。